

小児看護学実習計画

[病院]

(1) 実習目的

子どもの成長・発達段階の特徴を理解した上で、個々の健康状態に応じて、子どもと家族がいきいきと生活できるように支援するための基礎的な力を養う。

(2) 実習目標

- ① 個々の子どもの成長発達および生活を総合的に理解し、観察、分析、評価する。
- ② 子どもの発達段階に応じた適切な保育・養育を理解する。
- ③ 子どもの健康問題が子どもと家族に及ぼす影響をアセスメントし、必要な看護を実践、評価する。
- ④ 子どもや家族に必要な社会資源とその活用方法を理解する。
- ⑤ 他職種を交えたチームにおける看護職の役割を考える。
- ⑥ 子どもや家族との相互作用を通して、自己の看護観を深め、今後の課題を明らかにする。

(3) 実習内容

- ① 子どもの生活を理解する。
- ② 子どもの成長・発達段階を理解する。
 - a. 身体的発育状態
 - b. 精神的発達状態
 - c. 現在受けている保育・養育状況、社会的条件
- ③ 子どもの生活と成長・発達段階を踏まえた上で、健康問題が子どもに与える影響を理解する。
- ④ 子どもの健康的側面を加味した上で、総合的に分析して、子どもと家族のニーズに応じたケア、子どもの権利を尊重したケアを考える。
- ⑤ 上記④のケアを具体的に計画・実践し、行ったケアの結果はどうであったか、子どもと家族の反応を捉えた上で目標が達成できたのは何故か、達成できなかったのは何故か、分析、評価する。
- ⑥ 子どもと家族の生活の質を高めるために、現在利用されている社会資源を把握し、今後必要な社会資源を考え、その活用方法を理解する。
- ⑦ 施設内外における他職種との協働やチームにおける看護職の役割を考える。
- ⑧ 子どもや家族との相互作用を通して、自分がどのように変化したかを考え、今後の課題を明らかにする。

[保育所]

(1) 実習目的

地域で生活する乳幼児の成長発達を理解するとともに、保育所における保健活動を通して、子どもの成長発達や生活を支えるための基礎的な力を養う。

(2) 実習目標

- ① 個々の子どもの成長発達および生活を総合的に理解し、観察、分析、評価する。
- ② 子どもの発達段階に応じた適切な保育・教育を理解する。
- ③ (個としての) 子どもの健康問題を認識し、その家族および集団に及ぼす影響を考える。
(集団として) 集団としての健康課題をアセスメントし、必要な健康教育を実践、評価する。
- ④ 子どもと家族、および、子どもと集団の生活の質を高めるために、必要な社会資源とその活用方法を理解する。
- ⑤ 他職種を交えたチームにおける看護職の役割を考える。
- ⑥ 保育所が地域の子育て支援に果たす役割を理解する。
- ⑦ 子どもとの相互作用を通して、自己の看護観を深め、今後の課題を明らかにする。

(3) 実習内容

- ① 乳幼児の成長発達の特徴を理解し、観察する。
- ② 乳幼児の生活リズムおよび生活習慣の形成過程を理解し、関わりを行う。
- ③ 乳幼児の発達段階に応じた保育を理解し、実施する。
- ④ 乳幼児への保健活動、健康管理、安全管理についてアセスメントし、実施、評価する。
- ⑤ 子どもの権利を尊重した関わりを行う。
- ⑥ 保育所保健の活動を通して、保育所看護職の役割を理解する。
- ⑦ 地域の子どもと親に対する支援について理解する。
- ⑧ 子どもとの相互作用を通して、自分がどのように変化したかを考え、今後の課題を明らかにする。

(4) 実習方法

- ①実習時期：3年次 後期 9～1月
- ②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）
- ③実習方法
 - a. 医療施設1週間と保育所1週間ずつの実習を行う。
 - b. 施設の設定、構造、看護・保育体制、患児の生活像、実習病棟、保育所の概要を知る。
 - c. 医療施設実習では、受け持ち患児を1名決定する。看護場面を担当看護師について見学し、患児への看護活動の実際を知る。
 - d. 保育所では保育士について見学する。
 - e. 受け持ち患者とのコミュニケーションやケアを通して患者を理解し、指導のもとに基本的援助技術を実施する。
 - f. 最終日は実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。
- ④実習指導体制および指導上の留意点
 - a. 小児看護学の実習担当教員が認定評価の責任を負う。
 - b. 実習には小児看護学担当の准教授、助教、助手が担当する。
 - c. 医療施設では学生のユニット毎に教員1名を配置し実習指導に当たる。保育施設では教

員が毎日巡回指導にあたる。

- d. 実習の経過及び指導上の問題については毎日、教授に報告し助言を受けながら指導に当たる。
- c. 実習施設のオリエンテーションを実施する。
- d. 医療施設の実習では、学生1名が患児1名を受け持つことができるよう臨床指導者・担当教員で事前に準備する。保育所では、小児の発達に応じたかかわりを学べるよう保育士と事前に準備する。
- e. 援助技術実施前、中には実習指導者、担当教員、担当看護師、保育士のいずれかが指導を行う。
- f. 援助技術実施後には、リフレクションの時間をもち、患者理解、ケアに対して適切な指導を行う。
- g. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミクスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。
- h. 実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。

⑤教員指導体制

東部		地域コーディネーター：A										実習方法及び内容	
		第1グループ			第2グループ			第3グループ		第4グループ			
病院名		赤十字	生協	鳥取医療	中央	生協	赤十字	赤十字	中央	生協	鳥取医療		
実習学生数		2名	2名	2名	3名	2名	2名	2名	3名	2名	2名		
1週	月	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	病院・施設において、患児が過ごす入院環境や通院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患児の疾患や生活背景を施設責任者より説明を受ける。受け持ち患児を決定し、コミュニケーションを図り、患児のケアを実施。
	火	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	水	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	木	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	金	実習	菊原	小村・助手D	小村・非助手	小村・助手D	小村・非助手	菊原	菊原	小村	小村	菊原	受け持ち患児のケアを実施し、さらに学びの共有をおこない、疾患をもつ子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

保育所名			浜坂	あすなろ	久松	むつみ	かんろ	わかば台	さとに	湖山	大正	実習方法及び内容
実習学生数			2名	4名	2名	3名	3名	2名	2名	2名	2名	
2週	月	実習	小村				菊原				健全児が過ごす場を理解するため、保育施設のあり方や役割について施設責任者から説明を受け、担当のクラスに参加し、児とコミュニケーションを図る。保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践する。	
	火	実習	小村				菊原				保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	水	実習	小村				菊原				保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	木	実習	小村				菊原				保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	金	実習	小村				菊原				保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践し、さらに学びの共有をおこない、健全児の発達に影響する環境について考えを深める。子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。	

中部			地域コーディネーター：B				実習方法及び内容		
			第1グループ	第2グループ	第3グループ				第4グループ
病院名			岡本	岡本	厚生	まつだ	厚生	まつだ	
実習学生数			5名	5名	4名	4名	4名	4名	
1週	月	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	病院・施設において、患児が過ごす入院環境や通院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患児の疾患や生活背景を施設責任者より説明を受ける。受け持ち患児を決定し、コミュニケーションを図り、患児のケアを実施。
	火	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	受け持ち患児のケアの実施
	水	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	受け持ち患児のケアの実施
	木	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	受け持ち患児のケアの実施
	金	実習	菊原	菊原	菊原 助手D	菊原 非助手	菊原	小村	受け持ち患児のケアを実施し、さらに学びの共有をおこない、疾患をもつ子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

			第1グループ	第2グループ	第3グループ	実習方法及び内容	
保育所名			鳥取短大附属 保育園	倉吉東保育園	倉吉愛児園		
実習学生数			10名	8名	8名		
2週	月	実習	小村	菊原	菊原	健常児が過ごす場を理解するため、保育施設のあり方や役割について施設責任者から説明を受け、担当のクラスに参加し、児とコミュニケーションを図る。保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践する。	
	火	実習	小村	菊原	菊原	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	水	実習	小村	菊原	菊原	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	木	実習	小村	菊原	菊原	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習	
	金	実習	小村	菊原	菊原	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践し、さらに学びの共有をおこない、健常児の発達に影響する環境について考えを深める。子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。	

西部		地域コーディネーター：C						実習方法及び内容	
		第1グループ			第2グループ	第3グループ	第4グループ		
病院名		労災	松江医療センター	総合療育センター	総合療育センター	労災	総合療育センター		
実習学生数		5名	4名	6名	6名	5名	6名		
1週	月	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	病院・施設において、患児が過ごす入院環境や通院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患児の疾患や生活背景を施設責任者より説明を受ける。受け持ち患児を決定し、コミュニケーションを図り、患児のケアを実施。
	火	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	水	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	木	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	受け持ち患児のケアの実施
	金	実習	小村非助手	小村非助手	菊原	菊原	菊原	菊原	受け持ち患児のケアを実施し、さらに学びの共有をおこない、疾患をもつ子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

		第1グループ					第2グループ	第3グループ		実習方法及び内容	
保育所名		ズ保育園ベアー	ル園よどえババー	かみごとう	キッズタウン第2保育園	キッズタウンさくら保育園	いづみ保育園	いづみ保育園	わかば園		
実習学生数		4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名		
2週	月	実習	小村			菊原		小村	小村		健常児が過ごす場を理解するため、保育施設のあり方や役割について施設責任者から説明を受け、担当のクラスに参加し、児とコミュニケーションを図る。保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践する。
	火	実習	小村			菊原		小村	小村		保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習

	水	実習	小村	菊原	小村	小村	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習
	木	実習	小村	菊原	小村	小村	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実習
	金	実習	小村	菊原	小村	小村	保育所施設の臨地実習指導者に付いて実践し、さらに学びの共有をおこない、健常児の発達に影響する環境について考えを深める。子どもに対し、発達を含めた看護支援について考える。さらに、リフレクションを通して自己の課題を見出す。

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。

母性看護学実習計画

(1) 実習目的

母子およびその家族がよりよい健康生活を維持していくために必要な支援を実践するための基礎的能力を身につけ、特に周産期にある女性と新生児を中心に、正常な生殖・発達過程をみつめることを通して健康課題を捉え、ウェルネスの視点から看護を考えることができる。周産期にある母子とその家族への理解を深め、母性看護に必要な知識、技術、態度を養う。また、対象者とその家族が子育てに安心して取り組めるよう、看護実践を行うと共に保健指導のあり方について学ぶ。周産期にある母子とその家族を取り巻く保健医療チーム（施設内外、社会資源を含む）の役割について理解することができる。

*この要綱内で使用する「周産期」とは、広義の意味と解釈し、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期をさす。

(2) 実習目標

- ① 周産期にある母子とその家族が経験する様々な変化について理解できる。
- ② 周産期にある母子とその家族が有する健康上の課題、問題をアセスメントし、支援の必要性を理解できる。
- ③ 対象を尊重した姿勢で、必要な支援を実践し評価できる。
- ④ 周産期にある母子とその家族を取り巻く保健医療チーム（施設内外、社会資源を含む）の役割について考察することができる。

(3) 実習方法

- ①実習時期：3年次 後期 9～1月
- ②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）
- ③実習方法
 - a. 実習目標に基づき、母性看護学に必要な基礎的知識及び看護技術について自己学習しておく。
 - b. 施設の設備、構造、看護体制、患者の生活像、実習病棟の概要を知る。
 - c. 母子同室、分娩室、新生児集中治療室において実習する。
 - d. 産婦の看護、褥婦の看護、新生児の看護、異常妊産褥婦の看護について見学、体験する。
 - e. 外来における看護（妊婦健診、保健指導、乳房外来、産後1ヵ月健診など）の実際を見学する。
 - f. 最終日は実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。
- ④実習指導体制および指導上の留意点
 - a. 母性看護学の実習担当教員が認定評価の責任を負う。
 - b. 実習には母性看護学担当の教授、准教授、助教、助手が担当する。
 - c. 医療施設では学生のユニット毎に教員1名を配置し実習指導に当たる。
 - d. 実習の経過及び指導上の問題については毎日、教授に報告し助言を受けながら指導に当たる。

- e. 実習施設のオリエンテーションを実施する。
- f. 援助技術実施前、中には実習指導者、担当教員、担当看護師のいずれかが指導を行う。
- g. 援助技術実施後には、リフレクションの時間を持ち、患者の理解、ケアに対して適切な指導を行う。
- h. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミックスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。
- i. 実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。

⑤教員指導体制

東部			地域コーディネーター：A						実習方法及び内容
			第1グループ		第2グループ			第3グループ	
病院名			タグチ	みやもと	タグチ	中央	鳥取産院	津山中央	
実習学生数			5名	4名	5名	2名	4名	2名	
1週	月	実習	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	病院オリエンテーション 受け持ち妊産褥婦の決定・情報収集
	火	実習	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	看護師についてケアの実際を見学
	水	実習	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	木	実習	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	金	学内	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	学びの共有 カンファレンス
2週	月	実習	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	火	実習	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	水	実習	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	木	実習	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施 まとめのカンファレンス
	金	学内	前田	井田	前田助手D	前田非助手	井田	井田	学内カンファレンス

中部			地域コーディネーター：B					実習方法及び内容		
			第1グループ		第2グループ		第3グループ		第4グループ	
病院名			津山中央	ミオ	厚生	落合	津山中央		中曽	厚生
実習学生数			6名	2名	4名	4名	4名	2名	4名	
1週	月	実習	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	病院オリエンテーション 受け持ち妊産褥婦の決定・情報収集
	火	実習	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	看護師についてケアの実際を見学

	水	実習	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	木	実習	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	金	学内	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	学びの共有・カンファレンス
2週	月	実習	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	火	実習	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	水	実習	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施
	木	実習	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	受け持ち妊産褥婦・新生児のケアの実施 まとめのカンファレンス
	金	学内	井田	前田	井田	前田	前田	前田	井田	学内カンファレンス

西部		地域コーディネーター：C								実習方法及び内容	
		第1グループ			第2グループ			第3グループ			
病院名		長田	労災	ミオ	中曽	労災	ミオ	労災	ミオ		
実習学生数		4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名		
1週	月	実習	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	病院オリエンテーション 受け持ち妊産褥婦の決定・ 情報収集
	火	実習	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	看護師について ケアの実際を見学
	水	実習	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	受け持ち妊産褥婦・新生児の ケアの実施
	木	実習	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	受け持ち妊産褥婦・新生児の ケアの実施
	金	学内	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	学びの共有・ カンファレンス
2週	月	実習	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	受け持ち妊産褥婦・新生児の ケアの実施
	火	実習	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	受け持ち妊産褥婦・新生児の ケアの実施
	水	実習	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	受け持ち妊産褥婦・新生児の ケアの実施
	木	実習	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	受け持ち妊産褥婦・新生児の ケアの実施 まとめのカンファ レンス
	金	学内	前田 助手D	井田	前田 非助手	前田 助手D	井田	前田 非助手	井田	前田	学内カンファレ ンス

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。

老年看護学実習計画

(1) 実習目的

老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、老化に伴う変化について諸側面から理解し、健康障害を持つ高齢者の健康を回復・維持する過程における援助について学ぶ。

また、高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観と看護のあり方を考える。

(2) 実習目標

- ① 老化による身体的・心理的变化および社会的役割の変化を理解し、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因など、高齢者を多面的・総合的に理解できる。
- ② 健康障害を持つ高齢者の身体的・心理的・社会的特徴から、入院が高齢者に及ぼす影響について理解する。
- ③ 健康障害を持つ高齢者の特性・個別性を考慮した援助ができる。
- ④ 高齢者の生活史、価値観・信念を考慮した援助ができる。
- ⑤ 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につける。
- ⑥ 高齢者を取り巻く社会と看護職の役割について理解できる。
- ⑦ 介護施設では、施設での看護を学び、病院、地域等の多職種との連携・協働を学ぶ。

(3) 実習内容

- ① 高齢者に積極的に関心を持ち、個別性を重視したコミュニケーション方法を用いて関係を築く。
- ② 加齢によって生じる機能の変化を理解し、機能の変化には、相互関連性があること、個人差が大きいことを理解する。
- ③ 健康障害、入院・治療によって生じる諸機能の変化について理解する。加齢による一般的な変化と比較し、病院に入院している高齢者の身体的・心理的・社会的役割の変化を理解する。特に、高齢者に及ぼす精神的影響（予後・死に対する不安や恐怖、他者への依存・役割喪失などによる自尊感情の低下、孤独・無力感など）を理解する。
- ④ 受け持ち高齢者の心身の特徴に対して、ニーズと個別性・主体性をふまえながら、高齢者の自尊感情・自己決定を尊重した援助を計画し、実践する。
- ⑤ 老年期に至るまでの生活習慣・価値観を考慮して創造的に看護を実践する。
- ⑥ 生活機能を維持しながら、自立性を考慮した援助を安全・安楽に実践する。
- ⑦ 高齢者の検査・治療を理解し、それらに対する心身への影響を考慮した援助を行う。
- ⑧ 高齢者を支援する人、生活をともにする人に目を向け、どのような社会資源が必要なのか考える。
- ⑨ 高齢者を支える関係職種との連携について理解する。

(4) 実習方法

①実習時期：3年次 後期 9～1月

②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）

③実習方法

- a. 病院での実習を1週間、高齢者保健福祉施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、デイケアサービスなど）を1週間、実習する。
- b. 病院実習では、回復期またはリハビリテーション期にある高齢患者を1名受け持ち、看護を展開する。
- c. 施設の設定、構造、看護体制、患者の生活像、実習病棟の概要を知る。
- d. 受け持ち患者の看護場面を担当看護師について見学し、患者への看護活動の実際を知る。
- e. 受け持ち患者とのコミュニケーションやケアを通して患者を理解し、指導のもとに基本的援助技術を実施する。
- f. 受け持ち患者にかかわる病棟カンファレンス等に積極的に参加し、患者や家族の理解ならびに保健・医療・福祉のメンバーの協働のあり方について学ぶ。
- g. 学内での事後学習
実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。

④実習指導体制および指導上の留意点

- a. 地域包括支援看護学（老年）の実習担当教員が認定評価の責任を負う。
- b. 実習には看護学担当の准教授・助教・助手が担当する。
- c. 実習施設のオリエンテーションを実施する。
- d. 学生1名が患者1名を受け持つことができるよう臨床指導者・担当教員で事前に準備する。
- e. 援助技術実施前、中には実習指導者、担当教員、担当看護師のいずれかが指導を行う。
- f. 援助技術実施後には、リフレクションの時間を持ち、患者野理解、ケアに対して適切な指導を行う。
- g. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミックスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。

⑤教員指導体制

東部			地域コーディネーター：A					実習方法及び内容		
			第1グループ	第2グループ		第3グループ	第4グループ			
病院名			尾崎	智頭		ウエルフェア渡辺	鳥取医療			ウエルフェア渡辺
実習学生数			4名	2名	2名	4名	6名			4名
1週	月	実習	伊藤	伊藤	伊藤 非助手	伊藤	伊藤	高田 助手E	患者が過ごす入院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患者の疾患や生活背景について施設責任者より説明を受ける。受け持ち患者を決定し、受け持ち患者のケアを実施する。	
	火	実習	伊藤	伊藤	伊藤 非助手	伊藤	伊藤	高田 助手E	受け持ち患者のケアの実施	
	水	実習	伊藤	伊藤	伊藤 非助手	伊藤	伊藤	高田 助手E	受け持ち患者のケアの実施	
	木	実習	伊藤	伊藤	伊藤 非助手	伊藤	伊藤	高田 助手E	受け持ち患者のケアの実施	
	金	実習	伊藤	伊藤	伊藤 非助手	伊藤	伊藤	高田 助手E	受け持ち患者のケアの実施・学びの共有	

東部			地域コーディネーター：A							実習方法及び内容		
			第1グループ		第2グループ		第3グループ					第4グループ
施設名			老人保健施設 みやこ苑	老人保健施設 のまさたみ郷	老人保健施設 やすらぎ	デイサービス 湖南デイサービス	特養 白寿苑	特養 社いこいの	特養 あすなる 白兔			老人保健施設 はまゆう
実習学生数			2名	2名	2名	2名	4名	4名	2名			4名
2週	月	実習	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	高田 非助手	実習対象となる利用者を生活という側面から理解するために施設の概要及び利用者の疾患や生活背景について、施設責任者より説明を受ける。看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て実施する。	
	火	実習	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	高田 非助手	看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て実施する。	
	水	実習	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	高田 非助手	看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て実施する。	

	木	実習	高田 非助手	高田 助手 E	高田 非助手	高田 非助手	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手 E	高田 非助手	高田 非助手	看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て実施する。
	金	実習	高田 非助手	高田 助手 E	高田 非助手	高田 非助手	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手 E	高田 非助手	高田 非助手	看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て、実施する。 さらに学びの共有を行う。

中部		地域コーディネーター：B						実習方法及び内容	
		第1グループ		第2グループ		第3グループ			
病院名		垣田	谷口	三朝	藤井	三朝	野島		
実習学生数		4名	2名	4名	6名	4名	6名		
1週	月	実習	伊藤	高田 非助手	高田	伊藤 助手 E	伊藤	高田	患者が過ごす入院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患者の疾患や生活背景について施設責任者より説明を受ける。受け持ち患者を決定し、受け持ち患者のケアを実施する。
	火	実習	伊藤	高田 非助手	高田	伊藤 助手 E	伊藤	高田	受け持ち患者のケアの実施
	水	実習	伊藤	高田 非助手	高田	伊藤 助手 E	伊藤	高田	受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	伊藤	高田 非助手	高田	伊藤 助手 E	伊藤	高田	受け持ち患者のケアの実施
	金	実習	伊藤	高田 非助手	高田	伊藤 助手 E	伊藤	高田	受け持ち患者のケアの実施・学びの共有

中部		地域コーディネーター：B							実習方法及び内容		
		第1グループ			第2グループ		第3グループ				
施設名		老人 保健 施設	デイ サー ビ	デイ サー ビ	デイ サー ビ	特養	特養	老人 保健 施設			老人 保健 施設
施設名		ル・サンテリ オン東郷	テリ オン	和	三喜 苑	三朝 三喜 苑	ル・ソ ラ	ル・サンテリ オン北条	うつ ぶき		
実習学生数		2名	2名	4名	2名	4名	2名	4名	6名		
2週	月	実習	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手 E	高田 非助手	伊藤 非助手	伊藤 非助手	高田	伊藤	実習対象となる利用者を生活という側面から理解するために施設の概要及び利用者の疾患や生活背景について施設責任者より説明を受ける。 看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、

											指導を得て実施する。
火	実習	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	伊藤 非助手	伊藤 非助手	高田	伊藤	看護師に付き、高齢者の 特性を踏まえたケアを、 指導を得て実施する。	
水	実習	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	伊藤 非助手	伊藤 非助手	高田	伊藤	看護師に付き、高齢者の 特性を踏まえたケアを、 指導を得て実施する。	
木	実習	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	伊藤 非助手	伊藤 非助手	高田	伊藤	看護師に付き、高齢者の 特性を踏まえたケアを、 指導を得て実施する。	
金	実習	高田 非助手	高田 非助手	高田 助手E	高田 非助手	伊藤 非助手	伊藤 非助手	高田	伊藤	看護師に付き、高齢者の 特性を踏まえたケアを、 指導を得て、実施する。 さらに学びの共有を行 う。	

西部		地域コーディネーター：C									実習方法 及び内容	
		第1 グル ープ	第2グループ			第3 グル ープ	第4 グル ープ		第5 グル ープ			
病院名		日野	済生 会	済生 会	博愛	日野	西伯	日野	日南	日野		
実習学生数		4名	4名	4名	4名	4名	4名	2名	2名	4名		
1週	月	実習	伊藤	伊藤 助手 E	伊藤	高田 非助 手	伊藤	高田 助手 E	伊藤 非助 手	伊藤 非助 手	伊藤 助手 E	患者が過ごす入院環境を生活という側面から理解するために、病院の概要及び実習対象となる患者の疾患や生活背景について施設責任者より説明を受ける。受け持ち患者を決定し、受け持ち患者のケアを実施する。
	火	実習	伊藤	伊藤 助手 E	伊藤	高田 非助 手	伊藤	高田 助手 E	伊藤 非助 手	伊藤 非助 手	伊藤 助手 E	受け持ち患者のケアの実施
	水	実習	伊藤	伊藤 助手 E	伊藤	高田 非助 手	伊藤	高田 助手 E	伊藤 非助 手	伊藤 非助 手	伊藤 助手 E	受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	伊藤	伊藤 助手 E	伊藤	高田 非助 手	伊藤	高田 助手 E	伊藤 非助 手	伊藤 非助 手	伊藤 助手 E	受け持ち患者のケアの実施
	金	実習	伊藤	伊藤 助手 E	伊藤	高田 非助 手	伊藤	高田 助手 E	伊藤 非助 手	伊藤 非助 手	伊藤 助手 E	受け持ち患者のケアの実施・学 びの共有

西部	地域コーディネーター：C														実習方法及び内容	
	第1グループ	第2グループ				第3グループ			第4グループ	第5グループ	第6グループ					
	特養	老人保健施設	老人保健施設	老人保健施設	デイサービス	老人保健施設	老人保健施設	特養	老人保健施設	老人保健施設	特養	デイサービス	デイサービス	特養		
施設名	きんかい 幸朋苑	あわしま	弓浜ゆう とびあ	ゆうとび あ	かわさき	よなご幸 朋苑	なんぶ幸 朋苑	博愛苑	仁風荘	はまかせ	ピースポ ート	アザレア コート	よねはら	あかね		
実習 学生数	2名	2名	2名	2名	2名	2名	2名	2名	4名	4名	2名	2名	2名	2名		
2週	月	実習	伊藤	高田助手E	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	伊藤非助手	実習対象となる利用者を生活という側面から理解するために施設の概要及び利用者の疾患や生活背景について施設責任者より説明を受ける。看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て実施する。
	火	実習	伊藤	高田助手E	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	伊藤非助手	看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て実施する。
	水	実習	伊藤	高田助手E	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	伊藤非助手	看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て実施する。
	木	実習	伊藤	高田助手E	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	伊藤非助手	看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て実施する。
	金	実習	伊藤	高田助手E	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田	高田非助手	高田非助手	高田非助手	高田非助手	伊藤非助手	看護師に付き、高齢者の特性を踏まえたケアを、指導を得て、実施する。さらに学びの共有を行う。

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。

精神看護学実習計画

(1) 実習目的

精神保健上の健康問題をもつ対象者とその家族との「患者—援助者関係」を展開し、対象者および自己への理解を深める。さらに、実際にケアを行う中で、看護の役割、目的、支援方法について考えることができる。地域での生活を支援する場における看護の役割を学び、患者の地域生活支援とサポートシステム、精神保健上の健康問題をもつ対象者の自立と社会参加の促進、様々な職種との連携、協働について学ぶ。

(2) 実習目標

- ① 対象者をありのままにとらえ、精神保健上の健康問題だけではなく、健全な部分も把握する。
- ② 対象者が有している問題や生活上の困難をとらえ、対象者自らがその問題や困難をどのように体験しているのかを理解できる。
- ③ 対象者の精神保健上の健康問題や症状について医学的視点から理解することができる。
- ④ 対象者の状況・状態を医学的視点・心理学的・生活史・社会関係などと関連付けながら総合的に考えることができる。
- ⑤ 対象者の言動の意味を考えながら、対象者と「患者—援助者関係」を築くことができる。
- ⑥ 対象者とのかかわりを通して、自己に生じた感情や思考を認知し、それを適切に表現できる。また、対象者とのかかわりを振りかえり、自分の言動が対象者に及ぼす影響について考えることができる。
- ⑦ 対象者への日常生活援助を実践し、看護の役割、目的、支援方法について考えることができる。
- ⑧ 精神科病棟における安全管理の実際を知り、環境と治療方法の特徴について理解することができる。
- ⑨ 対象者を取り巻く社会環境について理解を深めていくことができる。

(3) 実習方法

- ①実習時期：3年次 後期 9～1月
- ②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）
- ③実習方法
 - a. 実習目標に基づき、精神看護学実習に必要な基礎的知識及び看護技術について自己学習しておく。
 - b. 施設の設定、構造、看護体制、患者の生活像、実習病棟の概要を知る。
 - c. 患者を1名受け持ち、受け持ち患者と行動をともに病棟・リハビリテーション科の作業、レクリエーション、その他の活動に参加し、看護を展開する。
 - d. 最終日は実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。
- ④実習指導体制および指導上の留意点
 - a. 地域包括支援看護学（精神）の実習担当教員が認定評価の責任を負う。
 - b. 実習には地域包括支援看護学（精神）担当の准教授、助教、助手が担当する。

- c. 学生のユニット毎に教員1名を配置し実習指導に当たる。
- d. 実習の経過及び指導上の問題については毎日、教授に報告し助言を受けながら指導に当たる。
- e. 実習施設のオリエンテーションを実施する。
- f. 援助技術実施前、中には実習指導者、担当教員、担当看護師のいずれかが指導を行う。
- g. 援助技術実施後には、リフレクションの時間を持ち、患者の理解、ケアに対して適切な指導を行う。
- h. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミクスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。
- i. 実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。

⑤教員指導体制

東部			地域コーディネーターA					実習方法及び内容
			第1グループ		第2グループ			
病院名			渡辺		鳥取医療	渡辺		
実習学生数			4名	4名	6名	4名	4名	
1週	月	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・情報収集
	火	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	看護師についてケアの実際を見学
	水	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	学びの共有・カンファレンス
2週	月	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	火	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	水	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施 まとめのカンファレンス
	金	学内	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	安田 非助手	学内カンファレンス

中部			地域コーディネーターB						実習方法及び内容
			第1グループ		第2グループ		第3グループ		
病院名			倉吉						
実習学生数			5名	5名	4名	4名	4名	4名	
1週	月	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・情報収集
	火	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	看護師についてケアの実際を見学
	水	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	学びの共有・カンファレンス
2週	月	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	火	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	水	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	受け持ち患者のケアの実施 まとめのカンファレンス
	金	学内	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	中川	安田 非助手	学内カンファレンス

西部			地域コーディネーターC						実習方法及び内容	
			第1グループ			第2グループ				
病院名			米子病院		養和	米子病院		西伯		養和
実習学生数			4名	4名	6名	4名	4名	4名		6名
1週	月	実習	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・情報収集
	火	実習	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	看護師についてケアの実際を見学
	水	実習	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	学びの共有・カンファレンス

2 週	月	実習	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	火	実習	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	水	実習	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	受け持ち患者のケアの実施 まとめのカンファレンス
	金	学内	中川	中川 非助手	安田 非助手	安田 非助手	安田 非助手	中川 非助手	中川 非助手	学内カンファレンス

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。

在宅看護学実習計画

(1) 実習目的

病院から地域社会への看護の継続性と連携について理解を深め、在宅で生活する様々な健康レベルにある人びとへの看護活動を理解し、看護実践能力の基盤を養う。

また、対象の特性に合わせた看護の方法・技術、地域ケアシステムについて理解し、在宅看護活動を実践するための基本的技術を養う。同時に、健康の保持・増進に向けてヘルスニーズを充たすための在宅看護の専門的活動方法を理解する。

(2) 実習目標

- ① 地域連携から在宅看護、公衆衛生看護まで様々な看護活動があることを理解する。
- ② 地域における看護職が関わる対象の特性(個人・家族・集団・コミュニティ、健康レベル、ライフサイクル、発達段階)について理解する。
- ③ 対象の特性に合わせた在宅看護の基本的技術を養う。
- ④ 在宅看護の展開方法について理解する。
 - a. 訪問看護過程の実際を理解する。
 - b. 対象者の意思を尊重した看護展開を理解する。
 - c. 適切な介護保険利用のためのケアコーディネーションについて理解する。
 - d. 施設から在宅へと切れ目ない継続看護実現のための看護の役割について考察する。
- ⑤ 社会資源の活用や多職種との連携・協働について理解する。

(3) 実習方法

①実習時期：4年次 前期 4～7月

②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）

③実習方法

- a. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業者、地域保健医療福祉事業および関連機関において2週間の実習を行う。
- b. 臨地実習指導者の指導の元に訪問看護や居宅介護支援のための家庭訪問等に同行する形態で実習を行い、学びの共有のために学内にてカンファレンスを行う。
- c. 施設の設備、構造、看護体制、患者の生活像、実習施設の概要を知る。
- d. 患者の看護場面を担当看護師について見学し、患者への看護活動の実際を知る。
- e. 受け持ち患者とのコミュニケーションやケアを通して患者を理解し、指導のもとに基本的援助技術を実施する。
- f. 施設のカンファレンス等に積極的に参加し、患者や家族の理解ならびに保健・医療・福祉のメンバーの協働のあり方について学ぶ。
- g. 学内での事後学習

実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。

④実習指導体制および指導上の留意点

- a. 地域包括支援看護学（在宅）の実習担当教員が認定評価の責任を負う。
- b. 実習には看護学担当の准教授、助教、助手が担当する。
- c. 実習施設のオリエンテーションを実施する。
- d. 訪問看護の実習では、学生1名が3～4事例の訪問看護に同行できるよう実習指導者と計画・調整する。
- e. 援助技術実施前、中には実習指導者、担当教員、担当看護師のいずれかが指導を行う。
- f. 援助技術実施後には、リフレクションの時間を持ち、患者の理解、ケアに対して適切な指導を行う。
- g. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミックスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。

⑤教員指導体制

東部			地域コーディネーター：A						実習方法及び内容
			第1グループ			第2グループ			
施設名			みやこ苑	まさたみの郷	はまゆう	まさたみの郷	みやこ苑	にしまち幸朋苑	
実習学生数			3名	4名	4名	4名	3名	4名	
1週	月	学内	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設オリエンテーション
	火	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	水	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	木	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	金	学内	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	学びの共有・カンファレンス
2週	月	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	火	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	水	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	木	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	金	学内	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	学びの共有・カンファレンス

中部			地域コーディネーター：B						実習方法及び内容		
			第1グループ			第2グループ					
施設名			のじま	くらのよし	みささ	せいわ	のじま	くらのよし		みささ	大栄
実習学生数			3名	3名	3名	4名	3名	3名	3名	4名	
1週	月	学内	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	施設オリエンテーション

	火	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	施設の看護師について実習
	水	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	施設の看護師について実習
	木	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	施設の看護師について実習
	金	学内	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	学びの共有カンファレンス
2週	月	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	施設の看護師について実習
	火	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	施設の看護師について実習
	水	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	施設の看護師について実習
	木	実習	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	施設の看護師について実習
	金	学内	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野 非助手	仲野 非助手	学びの共有カンファレンス

西部			地域コーディネーター：C							実習方法及び内容	
			第1グループ			第2グループ		第3グループ			
施設名			仁風荘(養)	ネットケア(真)	なんぶ幸朋苑(こ)	仁風荘(養)	ネットケア(真)	なんぶ幸朋苑(こ)	ほんわか(厚)		済生会白鷗(済)
実習学生数			4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名	4名	
1週	月	学内	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設オリエンテーション
	火	実習	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	水	実習	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	木	実習	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	金	学内	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	学びの共有・カンファレンス
2週	月	実習	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	火	実習	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習

	水	実習	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	木	実習	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	施設の看護師について実習
	金	学内	仲野 非助手	仲野 非助手	梅津	梅津	仲野	梅津 非助手	梅津 非助手	仲野	学びの共有・カンファレンス

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。

地域連携・協働実習計画

(1) 実習目的

地区踏査、健康統計資料の読解・分析、および関係機関訪問を通して、施設や機関が地域に果たしている役割、および社会システムの中での場の理解の方法を習得する。

また、保健・医療・福祉施設の機能と役割について学び、対象者が生活する場で生活が維持できるための具体的な援助方法としての連携、協働のあり方について考えることができる。

(2) 実習目標

- ① 地区踏査、健康統計資料の読解・分析までの一連の過程を学ぶ。
- ② 地域連携から様々な看護活動があることを理解する。
- ③ 施設や機関が地域に果たしている役割・機能・専門性について理解する。
- ④ 社会資源の活用や多職種との連携・協働について理解する。
- ⑤ 企画・調整・ネットワーク機能について学ぶ。
- ⑥ 社会システムの中での連携・協働の場の理解の方法を習得する。

(3) 実習方法

- ①実習時期：4年次 前期 4～7月
- ②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）
- ③実習方法
 - a. 地域包括支援センターにおいて実習をおこなう。
 - b. 臨地実習指導者の指導の元に地域への連携やネットワークについて理解する。
 - c. 施設の設備、構造、看護体制、患者の生活像、施設の概要を知る。
 - d. 患者の看護場面を担当看護師について見学し、患者への看護活動の実際を知る。
 - e. 学内での事後学習
実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、発表する。
- ④実習指導体制および指導上の留意点
 - a. 実習担当教員が認定評価の責任を負う。
 - b. 実習には看護学担当の教授、准教授が担当する。
 - c. 実習施設のオリエンテーションを実施する。
 - d. 学生が行う利用者への直接的なケアの責任は実習指導者、スタッフに依頼する。一方、教員は学生の実践状況や実習記録内容の確認、カンファレンス等の運営を通して学習の到達度の把握と学習支援に責任をもつ。
 - g. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミックスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。

⑤教員指導体制

東部			地域コーディネーター：A								実習方法及び内容	
施設名		鳥取中央	ま 鳥取 こや	鳥取西	鳥取南	鳥取東	岩美町	若桜町	八頭町	智頭町		
実習学生数		2名	1名	1名	1名	1名	4名	4名	4名	4名		
1週	月	学内	仲野	仲野	仲野	仲野	仲野	梅津	梅津	美船	美船	地区踏査
	火	実習	仲野	仲野	仲野	仲野	仲野	梅津	梅津	美船	美船	施設のオリエンテーション
	水	実習	仲野	仲野	仲野	仲野	仲野	梅津	梅津	美船	美船	施設の看護師について実習
	木	実習	仲野	仲野	仲野	仲野	仲野	梅津	梅津	美船	美船	病院連携室の見学
	金	学内	仲野	仲野	仲野	仲野	仲野	梅津	梅津	美船	美船	学びの共有・カンファレンス

中部			地域コーディネーター：B								実習方法及び内容	
施設名		うつぶき	マ グ ノ リ ア	倉吉中央	明倫小嶋	か も が わ	三朝町	湯梨浜町	琴浦町	北栄町		
実習学生数		2名	2名	2名	2名	2名	4名	4名	4名	4名		
1週	月	学内	田中響	高田	岩澤	高田	田中響	田中響	美船	岩澤	美船	地区踏査
	火	実習	田中響	高田	岩澤	高田	田中響	田中響	美船	岩澤	美船	施設のオリエンテーション
	水	実習	田中響	高田	岩澤	高田	田中響	田中響	美船	岩澤	美船	施設の看護師について実習
	木	実習	田中響	高田	岩澤	高田	田中響	田中響	美船	岩澤	美船	病院連携室の見学
	金	学内	田中響	高田	岩澤	高田	田中響	田中響	美船	岩澤	美船	学びの共有・カンファレンス

西部			地域コーディネーター：C								実習方法及び内容		
施設名		の 里 (社)	米子ふれあ ・湊山(厚)	米子市義方 ・加茂(こ)	米子市住吉 (こ)	米子市尚徳 (真)	米子市弓浜 屋	米子市箕蚊 (滝)	境港市北	南部町		江府町	日南町
実習学生数		4名	4名	4名	4名	4名	2名	4名	2名	2名		2名	
1週	月	学内	前田	前田	矢倉	矢倉	高田	高田	高田	美船	美船	美船	地区踏査
	火	実習	前田	前田	矢倉	矢倉	高田	高田	高田	美船	美船	美船	施設のオリエンテーション
	水	実習	前田	前田	矢倉	矢倉	高田	高田	高田	美船	美船	美船	施設の看護師について実習
	木	実習	前田	前田	矢倉	矢倉	高田	高田	高田	美船	美船	美船	病院連携室の見学
	金	学内	前田	前田	矢倉	矢倉	高田	高田	高田	美船	美船	美船	学びの共有・カンファレンス

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。

地域密着型サービス実習計画

(1) 実習目的

要介護者の住み慣れた地域での生活を支えるため、身近な市町村で提供されることが適当なサービス類型として設置された地域密着型サービスの機能・役割を理解する。利用者の生活圏域で、地域で暮らすさまざまな健康レベルの人びとを地域の社会的条件下で多面的・総合的に理解する力を培う。利用者の健康ニーズの把握の方法を学び、QOLの向上にむけた健康問題への看護実践能力と態度を養う。

(2) 実習目標

- ① 地域包括ケアシステムが進められている中で、地域には様々な看護活動があることを理解する。
- ② 地域密着型サービスの中の小規模多機能型居宅介護および複合型サービスの機能・役割を理解する。
- ③ 社会資源の活用や多職種との連携・協働について理解する。
- ④ 利用者への看護過程を通して、小規模多機能型居宅介護および複合型サービスにおける看護および家族支援を学ぶ。
- ⑤ 介護予防サービス・地域交流プログラムに参加する。
- ⑥ 地域密着型サービスにおける看護の役割およびあり方について学ぶ。

(3) 実習方法

- ① 実習時期：4年次 前期 4～7月
- ② 実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）
- ③ 実習方法
 - a. 臨地実習は5日間である。
 - b. 臨地実習指導者の指導のもとに地域連携・協働を理解する。
 - c. 施設の設備、構造、看護・介護体制、利用者の生活像、施設の概要を知る。
 - d. 受け持ち事例を通して、要支援・要介護者の対象特性を地域の社会的条件下で多面的・総合的に理解し、ニーズを把握、看護を展開する。さらに、個々に必要な社会的資源を見出す。
 - e. 介護予防サービス・地域交流プログラムに参加し、臨地実習指導者の指導のもと看護を実践する。
 - f. 実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有し、地域密着型サービスにおける看護の役割・あり方について学ぶ。

④ 実習指導体制および指導上の留意点

- a. 実習担当の専任教員が単位認定評価の責任を負う。
- b. 学生が行う利用者への直接的なケアの責任は臨地実習指導者、スタッフに依頼する。教員は学生の実践状況や実習記録内容の確認、カンファレンス等の運営を通して学習の到達度の把握と学習支援に責任をもつ。
- c. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミクスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。

⑤ 教員指導体制

東部			実習方法及び内容					
施設名			デイハウス じゅんぶう	小規模多機能 型居宅介護 いくのさん家	小規模多機能 型居宅介護 まさたみの郷	小規模多機能 型居宅介護 木守舎	小規模多機能 型居宅介護 大郷いくのさ ん家	実習方法及び内容
実習学生数			4	4	4	6	4	
1 週	月	実習						実習施設にて施設の特徴や連携について学ぶ。要支援・要介護者とのコミュニケーションを通して、その対象特性や思いを理解する
	火	実習						看護師に付き、個別の要支援・要介護者のニーズを利用者の地域（在宅）の社会的条件下で把握する
	水	実習						看護師に付き、個別の要支援・要介護者および家族のニーズに基づいて看護を展開し、評価する
	木	実習						看護師に付いて、介護予防・地域交流プログラムに参加し看護を実践する
	金	実習						学びを共有し、地域密着型サービスにおける看護の役割・あり方について学ぶ

中部			実習方法及び内容					
施設名			地域ケアセン ター マグノリア	地域サポ ート ハウスしみず	小規模多機能 型居宅介護 施設 設な花	小規模多機能 ホームつばき	小規模多機能 型居宅介護事 業所ガーデン ハウス野花	実習方法及び内容
実習学生数			6	6	6	4	4	
1 週	月	実習						実習施設にて施設の特徴や連携について学ぶ。要支援・要介護者とのコミュニケーションを通して、その対象特性や思いを理解する
	火	実習						看護師に付き、個別の要支援・要介護者のニーズを利用者の地域（在宅）の社会的条件下で把握する
	水	実習						看護師に付き、個別の要支援・要介護者および家族のニーズに基づいて看護を展開し、評価する
	木	実習						看護師に付いて、介護予防・地域交流プログラムに参加し看護を実践する
	金	実習						学びを共有し、地域密着型サービスにおける看護の役割・あり方について学ぶ

西部		地域コーディネーターC						実習方法及び内容
施設名		照陽の家	ほんわか茶町	かみごとう 小規模多機能 ホームに風荘	ふる里 複合型サービ ス真誠会	くすも デイハウス	こせんこく デイハウス	
実習学生数		6	6	6	6	4	4	
1 週	月	実習						実習施設にて施設の特徴や連携について学ぶ。要支援・要介護者とのコミュニケーションを通して、その対象特性や思いを理解する
	火	実習						看護師に付き、個別の要支援・要介護者のニーズを利用者の地域(在宅)の社会的条件下で把握する
	水	実習						看護師に付き、個別の要支援・要介護者および家族のニーズに基づいて看護を展開し、評価する
	木	実習						看護師に付いて、介護予防・地域交流プログラムに参加し看護を実践する
	金	実習						学びを共有し、地域密着型サービスにおける看護の役割・あり方について学ぶ

⑥ 実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度(評価表)(90%)、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度、実習終了後のレポートなど(10%)で評価する。

看護学統合実習計画

(1) 実習目的

学生は、これまでに学んだ知識、技術、態度を統合しながら事例を対象とした看護実践を展開し、これまでの看護実践経験から芽生えた問題意識を研究的な過程に乗せて、自らの課題を追求し、深めることを目的とする。

(2) 実習目標

学生は自分の関心のある分野を、専門支持分野、専門実践分野、地域包括支援分野の中から一つ選択する。選択した分野の領域において、自らの研究テーマに基づき、看護を展開する。さらに、看護の実践を通して、総合看護の概念につなげることができる。

(3) 実習方法

①実習時期：4年次 前期 7～8月

②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）

③実習方法

- a. 各実習施設の病棟スケジュールに準じて実習を行う。
- b. 原則、学生1名に患者1名以上を受け持つ。
- c. 学生自身の研究テーマにもとづいて、毎日の実習行動計画を立て、実習指導者に提示し、指導を受ける。
- d. 担当看護師の指導の元に患者のケアを実施する。実習進度に従って徐々にケア実施における学生の主体性を高め自律的に看護できるようにする。
- e. その日の実習終了時、担当看護師と1日のケアを振り返り、指導・助言を受ける。
- f. 学内での事後学習
実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有する。

④実習指導体制および指導上の留意点

- a. 担当教員の中から実習施設毎に総括責任者を置き、実習全体の総括と当該実習施設内での調整ならびに連携を図る。
- b. 実習施設の病棟毎に4名程度の学生を配置する。担当教員が、各々担当病棟をもち、実習学生に責任をもつ。
- c. 実習開始までに担当教員が実習病棟の実習指導者と事前に連携をとり、実習目的・目標や実習方法を周知する。
- d. ベッドサイドケアに対する直接的な学生指導は、患者のケアに責任をもつ担当看護師によって行い、ケアの優先度の判断や個別的なケアを中心に指導する。実習指導者と担当教員は、学生の到達度について担当看護師との連絡・調整を頻回にとり、学生の実習が円滑に展開できるよう支援する。担当看護師にケアが集中し、指導が困難な場合には適宜、直接指導を行う。

- e. 原則として毎日カンファレンスを行う。学習の学びの共有化と課題探求に向けてグループダイナミックスが発揮でき、学生が主体的に取り組めるように教員が支援する。

⑤教員指導体制

東部			地域コーディネーター：A				実習方法及び内容
病院名			中央	赤十字	尾崎	生協	
実習学生数			6名	6名	4名	6名	
1週	月	実習	担当ゼミ教員				病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・情報収集
	火	実習	担当ゼミ教員				看護師についてケアの実施
	水	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	担当ゼミ教員				学びの共有・カンファレンス
2週	月	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	火	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	水	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	担当ゼミ教員				学内カンファレンス まとめのカンファレンス

中部			地域コーディネーター：B				実習方法及び内容
病院名			厚生	三朝	野島	垣田	
実習学生数			12名	8名	4名	2名	
1週	月	実習	担当ゼミ教員				病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・情報収集
	火	実習	担当ゼミ教員				看護師についてケアの実施
	水	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	担当ゼミ教員				学びの共有・カンファレンス
2週	月	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	火	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	水	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	担当ゼミ教員				受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	担当ゼミ教員				学内カンファレンス まとめのカンファレンス

西部			地域コーディネーター：C					実習方法及び内容
病院名			労災	済生会	博愛	西伯	日野	
実習学生数			14名	8名	4名	4名	2名	
1週	月	実習	担当ゼミ教員					病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・情報収集
	火	実習	担当ゼミ教員					看護師についてケアの実施
	水	実習	担当ゼミ教員					受け持ち患者のケアの実施
	木	実習	担当ゼミ教員					受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	担当ゼミ教員					学びの共有・カンファレンス
2週	月	実習	担当ゼミ教員					受け持ち患者のケアの実施
	火	実習	担当ゼミ教員					受け持ち患者のケアの実施
	水	実習	担当ゼミ教員					受け持ち患者のケアの実施

	木	実習	担当ゼミ教員	受け持ち患者のケアの実施
	金	学内	担当ゼミ教員	学内カンファレンス まとめのカンファレンス

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。

公衆衛生看護活動展開論実習計画

1) 公衆衛生看護活動展開論実習

(1) 実習目的

地域基礎看護学、公衆衛生学、保健統計学、地域連携・協働支援論、疫学、社会福祉・社会保障論で学んだ知識を活用した実習とする。臨地実習は、地域で生活する様々な健康レベルにある高齢者への地域包括ケアシステムを理解し、高齢者保健分野における看護実践能力の基盤を養うために、市町村で行う。市町村の機能を理解し、専門職の役割分担と看護職の役割、利用者の特性を理解する。さらに市町村内外との連携・協働の実際から、地域の高齢者等への包括的継続的ケアについて理解する。

(2) 実習目標

- ① 地域で生活する様々な健康レベルにある高齢者への地域包括ケアシステムを理解する。
- ② 市町村の機能を理解し、専門職の役割分担と看護職の役割を理解する。
- ③ 市町村の施設利用者の特性を理解する。
- ④ 市町村の施設内外との連携・協働の実践を体験する。
- ⑤ 連携・協働の実践から地域における包括的継続的ケアについて考えることができる。

(3) 実習方法

- ①実習時期：4年次 前期 4～7月
- ②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）
- ③実習方法
 - a. 鳥取県下の3医療圏域ごとに実習グループを編成し、保健所管内の1～3市町村に分かれて1週間の実習を行う。
 - b. 各実習施設のスケジュールに準じて実習を行う。
 - c. 実習までに今までの学びを再構築する。さらに自己の学習課題を明確にする。
 - d. 実習目標と学生個々の自己学習課題に基づき、実習指導者との打ち合わせの場をもち実習計画を立てる。
 - e. 学生個々の保健師としてのキャリアプランを面接により確認し、実習目的や目標の理解を促す。
 - f. 実習指導者および関係者からのオリエンテーションを受ける。
 - g. その日の実習終了時、実習指導者と1日のケアを振り返り、指導・助言を受ける。
 - f. 学内での事後学習

実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有する。
- ④実習指導体制および指導上の留意点
 - a. 公衆衛生看護学担当の教員は学生グループの担当制とし、実習前後の指導を行い、実習中は実習計画内容に基づき、週に3～4回程度、巡回により指導を行う。
 - b. 実習計画については、学生、実習指導者、教員の3者による打ち合わせにより、共通

認識を図る。

- c. 保健所、市町村に対してそれぞれ1～2名の実習指導者を依頼する。また、参加する保健医療福祉活動により、関係スタッフの指導を仰ぐ。

⑤教員指導体制

東部			地域コーディネーター：A					実習方法及び内容
			第1グループ			第2グループ		
施設名			八頭町	若桜町	智頭町	鳥取市	岩美町	
実習学生数			4名	4名	4名	6名	4名	
1週	月	学内	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	地区踏査
	火	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	オリエンテーション
	水	実習	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	保健師について実習
	木	実習	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	保健師について実習
	金	学内	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	美船 非助手	学びの共有 カンファレンス

中部			地域コーディネーター：B					実習方法及び内容
			第1グループ	第2グループ		第3グループ		
施設名			倉吉市	三朝町	北栄町	琴浦町	湯梨浜町	
実習学生数			10名	4名	4名	4名	4名	
1週	月	学内	稲田	美船 非助手	美船 非助手	稲田 非助手	稲田 非助手	地区踏査
	火	実習	稲田	美船 非助手	美船 非助手	稲田 非助手	稲田 非助手	オリエンテーション
	水	実習	稲田	美船 非助手	美船 非助手	稲田 非助手	稲田 非助手	保健師について実習
	木	実習	稲田	美船 非助手	美船 非助手	稲田 非助手	稲田 非助手	保健師について実習
	金	学内	稲田	美船 非助手	美船 非助手	稲田 非助手	稲田 非助手	学びの共有・カンファレンス

西部			地域コーディネーター：C					実習方法及び内容	
			第1グループ	第2グループ		第3グループ			
施設名			境港市	南部町	米子市	米子市	江府町		日南町
実習学生数			12名	2名	8名	6名	2名		2名
1週	月	学内	岩澤	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	地区踏査
	火	実習	岩澤	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	オリエンテーション
	水	実習	岩澤	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	岩澤 非助手	保健師について実習

	木	実習	岩澤	岩澤 非助 手	岩澤 非助 手	岩澤 非助 手	岩澤 非助 手	岩澤 非助 手	保健師について実習
	金	学内	岩澤	岩澤 非助 手	岩澤 非助 手	岩澤 非助 手	岩澤 非助 手	岩澤 非助 手	学びの共有・カンファレンス

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。

公衆衛生看護管理論実習計画

(1) 実習目的

公衆衛生看護学概論、疫学、保健統計学および公衆衛生看護管理論で学んだ知識を活用し、医療保険者として市町村など多様な場で実習を行う。地域で生活する様々な健康レベルにある人びとへの看護活動を理解し、看護実践能力の基盤を養う。対象の特性に合わせた看護の方法・技術、地域ケアシステムについて理解し、公衆衛生看護活動を実践するための基本的技術を養う。同時に、健康の保持・増進に向けて、地域診断に基づき、地域のヘルスニーズを充たすための公衆衛生看護の専門的活動方法を理解する。

(2) 実習目標

- ① 地域で生活する様々な健康レベルにある人びとへの看護活動を理解する
- ② 公衆衛生看護学概論、疫学、保健統計学および公衆衛生看護管理論で学んだ知識を活用し、医療保険者として市町村など多様な場を理解する。
- ③ 対象の特性に合わせた看護の方法・技術、地域ケアシステムについて理解し、公衆衛生看護活動の実践を通して基本的技術を学ぶ。
- ④ 健康の保持・増進に向けて、地域診断ができ、地域のヘルスニーズを充たすための公衆衛生看護の専門的活動方法を理解する。

(3) 実習方法

- ①実習時期：4年次 前期 4～7月
- ②実習オリエンテーション：実習1週間前にオリエンテーション（2コマ）
- ③実習方法
 - a. 鳥取県下の3医療圏域ごとに実習グループを編成し保健所において2週間の実習を行う。
 - b. 各実習施設のスケジュールに準じて実習を行う。
 - c. 実習までに今までの学びを再構築する。さらに自己の学習課題を明確にする。
 - d. 実習目標と学生個々の自己学習課題に基づき、実習指導者との打ち合わせの場をもち実習計画を立てる。
 - e. 学生個々の保健師としてのキャリアプランを面接により確認し、実習目的や目標の理解を促す。
 - f. 実習指導者および関係者からのオリエンテーションを受ける。
 - g. その日の実習終了時、実習指導者と1日のケアを振り返り、指導・助言を受ける。
 - h. 学内での事後学習

実習目標に基づき、実習での学びをグループで共有する。
- ④実習指導体制および指導上の留意点
 - a. 公衆衛生看護学担当の教員は学生グループの担当制とし、実習前後の指導を行い、実習中は実習計画内容に基づき、週に3～4回程度、巡回により指導を行う。
 - b. 実習計画については、学生、実習指導者、教員の3者による打ち合わせにより、共通認

識を図る。

- c. 保健所、市町村に対してそれぞれ1～2名の実習指導者を依頼する。また、参加する保健医療福祉活動により、関係スタッフの指導を仰ぐ。

⑤教員指導体制

東部			地域コーディネーター：A			実習方法及び内容
施設名			鳥取保健所			
実習学生数			第1グループ	第2グループ	第3グループ	
			10名	10名	10名	
1週	月	学内	美船	美船	美船	オリエンテーション 地区踏査
	火	実習	美船	美船	美船	保健所の保健師について実習
	水	実習	美船	美船	美船	保健所の保健師について実習
	木	実習	美船	美船	美船	保健所の保健師について実習
	金	学内	美船	美船	美船	中間カンファレンス
2週	月	実習	美船	美船	美船	保健所の保健師について実習
	火	実習	美船	美船	美船	保健所の保健師について実習
	水	実習	美船	美船	美船	保健所の保健師について実習
	木	実習	美船	美船	美船	保健所の保健師について実習
	金	学内	美船	美船	美船	学びの共有・カンファレンス

中部			地域コーディネーター：B		実習方法及び内容
施設名			倉吉保健所		
実習学生数			第1グループ	第2グループ	
			10名	10名	
1週	月	学内	稲田	稲田	オリエンテーション 地区踏査
	火	実習	稲田	稲田	保健所の保健師について実習
	水	実習	稲田	稲田	保健所の保健師について実習
	木	実習	稲田	稲田	保健所の保健師について実習
	金	学内	稲田	稲田	中間カンファレンス
2週	月	実習	稲田	稲田	保健所の保健師について実習
	火	実習	稲田	稲田	保健所の保健師について実習
	水	実習	稲田	稲田	保健所の保健師について実習
	木	実習	稲田	稲田	保健所の保健師について実習
	金	学内	稲田	稲田	学びの共有・カンファレンス

西部			地域コーディネーター：C			実習方法及び内容
施設名			米子保健所			
			第1グループ	第2グループ	第3グループ	
実習学生数			10名	10名	10名	
1週	月	学内	岩澤	岩澤	岩澤	オリエンテーション 地区踏査
	火	実習	岩澤	岩澤	岩澤	保健所の保健師について実習
	水	実習	岩澤	岩澤	岩澤	保健所の保健師について実習
	木	実習	岩澤	岩澤	岩澤	保健所の保健師について実習
	金	学内	岩澤	岩澤	岩澤	中間カンファレンス
2週	月	実習	岩澤	岩澤	岩澤	保健所の保健師について実習
	火	実習	岩澤	岩澤	岩澤	保健所の保健師について実習
	水	実習	岩澤	岩澤	岩澤	保健所の保健師について実習
	木	実習	岩澤	岩澤	岩澤	保健所の保健師について実習
	金	学内	岩澤	岩澤	岩澤	学びの共有・カンファレンス

⑥実習の評価

実習目標の達成状況を総合的に評価する。

実習目標の到達度（評価表）（90%）、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度
実習終了後のレポートなど（10%）で評価する。